

令和6年10月7日

保護者様

丹波篠山市立大山小学校

校長 山本 真

## 令和6年度 丹波篠山市立大山学校 学習や生活に関する学力向上プラン

本校は、全国学力・学習状況調査（6年生）及び丹波篠山市学力・生活習慣状況調査（5年生）、生活習慣状況調査（3・4年生）の結果をもとに授業改善等を行うため、「学習や生活に関する学力向上プラン」を作成しました。学力の定着状況等についてご理解いただき、子どもたちの学習や生活習慣の改善、さらに学校の教育活動にご支援いただければありがたいと思います。

### 【調査結果の概要】

#### 全体的な状況

6年生対象に行われた全国学力・学習状況調査（国・算）、5年生対象に行われた丹波篠山市学力状況調査（国・算）では、どちらの学年も教科や単元によって目標値及び全国平均を上回る結果と下回る結果がでており、得意な分野と不得意な分野の差が顕著に見られました。また、同じ分野内でも、問題の内容によって差が見られるものもありました。

#### 国語科

6年生については、文の中に主語と述語との関係を捉える「言葉の特徴や使い方に関する事項」が高い正答率になっています。また、目的や意図に応じて、集めた資料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題は全員正答でした。しかし、目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する「書くこと」に課題が見られました。

5年生については、既習学年に配当されている漢字を正しく書く「知識及び技能」が高い正答率になっています。また、話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えたり、必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことの内容を捉えたりする「話すこと・聞くこと」が高い正答率になっています。しかし、指定された長さで文章を書き表したり、自分の考えをその理由と文の例を挙げて文章を書き表したりする「書くこと」に課題が見られました。

#### 算数科

6年生については、問題場面の数量の関係を捉え、式に表す問題や、除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係についての問題など「数と計算」に関する問題の正答率が高い結果となっています。しかし、同じ「数と計算」の領域においても、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考え、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題に課題が見られました。

5年生については、分度器の目盛りを読む「測定」や伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることができる「変化と関係」が高い正答率になっています。しかし、平行四辺形の作図をする「図形」や、伴って変わる2つの数量の関係を式に表す「変化と関係」に課題が見られました。

#### 学習生活習慣について

どの学年においても、項目によって全国平均を上回る結果と下回る結果がでています。3年生では「学級の規範意識」の項目において数値が高く、規則を守って学校生活を送ることができていると感じているようです。4年生では「先生のささえ」の項目において数値が高く、多くの児童が先生との信頼関係を築くことができていることや認められていると感じているようです。5・6年生では「学級の絆」の項目において数値が高く、クラスの仲間との協働的な活動を通して、学級の絆を感じているようです。

## 課題と対応

この結果をもとに、「国語科」「算数科」においてこれまでの学力向上の取組を真摯に見つめ直し、今後、学校として「授業の工夫」・「基礎的内容の習得」等を課題として一層の取組を進めていきたいと考えています。そのため、結果の分析を通して『子どもたちに必要な力は何か』、その力をつけるために『どのように授業を改善していけばよいのか』という授業改善の視点を検討しました。

### 国語科

#### 目的や意図に応じて、自分の考えを支える理由や根拠を明確にして伝える力の育成

- ・自分が書いた文章と友だちが書いた文章を読み比べたり交流したりすることで、よりよい文章の書き方について理解を深める学習に取り組んでいきます。
- ・授業の中において、お互いの考えを伝え合う対話の時間を設定し、目的意識を持って話し合う学習に取り組んでいきます。
- ・段落指定、字数制限、キーワード、接続詞・修飾語を使うなどの「条件付き」の文章の書き方を学べる機会を増やしていきます。
- ・日常的に作文指導を行い、書くことへの習慣化に取り組んでいきます。
- ・言語環境を整えて低学年から活字に触れる機会を増やし文章や読書に向う姿勢を育てていきます。
- ・自己学習力を身につけられるように自主学習等を通した日々の取り組みを続けていきます。

### 算数科

#### 問題の内容を適切に理解し、問題解決のために必要な情報を取捨選択し、根拠を基に問題を解決する力の育成

- ・思考過程を言葉にしたり文章に書いたりする言語活動の場面を授業の中に取り入れていきます。
- ・お互いの考えを聞いたり自分の考えと比較しながら聞いたりする時間を設定し、対話的な学習に取り組んでいきます。
- ・基礎学力となる学年相当の計算力を身につけられるよう計算スキルの向上を目指していきます。
- ・操作活動を取り入れたり具体物を活用したりすることで、数概念について理解を深める学習に取り組んでいきます。

### 学習・生活習慣

これまで同様、子どもたちの学習や生活習慣が崩れないように家庭との連携を密に図っていきます。また、今後も対話を取り入れた学習形態や目的意識を持った課題設定の取り組みも含め、クラブ活動や総合的な学習の時間などの様々な学習において、家庭や地域の方との関わりながら、お互いを認め合い、児童自身が自信を持てるような機会を設けていきます。

### 【保護者の皆様へのお願い】

本プランを提案したねらいは、児童の実態や課題を明確にし、課題解決に向けて学校と家庭が連携して学力の向上に取り組むことにあります。

今後も学校と家庭が連携し、子どもたちの更なる成長を見守っていきたくと考えております。

ご家庭におきましては、日々の学習等で子どもたちの励みとなる声かけを引き続きお願いいたします。